

1 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和8年1月28日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 15時00分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、甲斐千尋、遠田真央、廣池加代子	
	参 与	丸山真二、池田元洋、岩佐正文、佐藤幸恵、岩切隆人、早瀬誠一郎、 吉田尚良、尾方農一、甲斐保孝、岡田健一、田中政秀	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13 時 30 分）

令和8年1月1日付で就任した廣池加代子委員から挨拶があった。

◎ 会議録の承認

12 月 24 日（水）に開催された 12 月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・市町村対抗駅伝競走大会本市チーム激励
- ・校長評価フィードバック
- ・コミュニティ・スクールフォーラム
- ・市町村対抗駅伝競走大会応援
- ・旭有機材との協議
- ・ベガルタ仙台歓迎レセプション
- ・県校務支援共同調達・運用協議会総会
- ・R7 学生インターンシップ・教育大学リーグに係る協議
- ・台湾（台南市）との交流市長協議
- ・民間プール活用の今後についての協議

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員） 市役所の市民スペースで、先日冊子をもらった「大切な人に伝えたい心のメッセージ」が展示してあるということで見に行ったのだが、どのメッセージもたいへん心温まるメッセージで、いろいろな人に対してそ

れぞれの日常の思いが込められている感じがとても素晴らしいなと思った。全体的に、一緒に過ごしているお父さんやお母さん、そしておじいちゃんやおばあちゃんといった家族向けのメッセージが多い中、小学生のメッセージの中で、4年生の「教頭先生へ」というのと、6年生が「先生へ」のメッセージを書いている部分が印象に残った。4年生の「教頭先生へ」というメッセージについては、授業で多分手紙の書き方についての勉強があったのだと思うが、それを教頭先生に出して、その返事で教頭先生がその子どもに手紙をあげたという内容であった。もう一つの6年生の分については「先生の授業がたいへん面白くて、分かりやすく大好きです。」というような内容のメッセージだった。子どもたちがこのように大切な人へということで、学校の先生に対してメッセージを送っていることに対して、私としてはたいへん嬉しいなという思いがした。非常に短いメッセージだが、内容からも、日常的な子どもたちに対しての先生方の言葉掛けであったりとか、関わり方であったりとか、そして授業であったり、しっかりと子どもたちの目線での対応を日々実践されているのだなという姿がたいへん目に浮かんできたところである。子どもたちはやはり学校という限られた場所・時間であるが、そのような時間の中で、このような先生方の姿を見ながら、人間的には成長していく部分も多いのだと思う。どの学校もこのような思いで子どもたちの教育に当たってもらっていると思うが、子どもたちにとっての心の教育につながっていく学校生活というのはやはり大切なんだなと改めて思ったところである。これからも、そのような子どもたちにとって、楽しく、心の休まるような、学校であってほしいなという思いを感じたところである。

廣池委員) 今月就任して、はたちの成人式に参加した。私は視力が良くて、遠くはすべて見えるので、壇上から参加者のはたちの方々をくまなく見ていた中で、一つだけ気づきがあった。皆スマホを手にしてしたが、ずっと見続ける人はいなかった。ちら見をする人はいたが、しっかりと壇上の方の話に顔を向けてくれているなというのを見ていた。スマホをずっと見続けてはいないんだということが分かり、ここでちょっとはたちの大人になるステップの場に来て、このような気持ちを持ってもらえている、前で話す人をしっかり見るというのは、やはり教育機関の中できちんと伝えてきてもらったことだと思う。そこを式典の中で一度立ち止まって、挨拶を聞かなきゃというような姿が見られたなというのが少し嬉しかった。

遠田委員) 先週キャリア教育支援センターの「よのなか先生」という講師として、東海中学校の2年生のところに行って講演をしてきた。僕自身の

幼少期、喘息持ちで体が弱かったこととか、あとは、何をやっても継続できなかったこととかで、自分のことをあまり好きではなかったというところから、高校2年生でサーフィンに出会って、冬など最初はやるつもりはなかったが、気づいたら冬もやるぐらい好きになっていたという話をした。そこから千葉に移住し、プロを目指しずっとやってきた。そのあともハワイの波で死にかけたりとか、大会で全然勝てない、月の給料が4万円になったこともあったりとか、そのようなことも色々話しながら、今もこうやってプロサーファーとしてもやっているし、サーフショップもやっているし、このように教育委員もやらせてもらい、さらに宮崎のトレーニングジムの店長もやっていて、常に忙しく動いているのだが、それでも今でもわくわくしながらやっているということを伝え、プロだからすごいとかそういうのではなく、私のような人でも、こういう年の取り方というか、そういう人生が歩めるから、自分を好きになって頑張りたいという思いを伝えた。そのあとの感想文を見ると、いろんなそれぞれの感想、それぞれの受け止め方があり、それもまた面白かった。あとこの前の総合教育会議で、追跡調査の話が出たと思うが、私のような場合だと逆だと思う。振り返りこういう子どもだったが、こういう大人になっているという話だ。いろんな方の人生を子どもたちに伝えてあげると、いろんな生き方があるんだなということが分かると思うので、いろんな方にどんどん行ってもらい、話してほしいと思っている。

甲斐委員) 1月5日が会社の仕事始めだったが、今年初めてとても嬉しいことがある。自分を含めて4代目になるのだが、東京にいた27歳の孫が東京から帰ってきて、今会社で修行している。彼が多分4代目の社長になると思うが、企業を存続していくというのは、人から人なのだが、本当に嬉しい限りだと思う。1月9日の高齢者講習という運転免許証切り替えの時に受ける講習のハガキが去年の暮れに来た。自分は今年5月20日で73歳になる。高齢者講習ということで気構えて行っていたが、2時間講習を受けた。免許センターで行うものを自動車学校で行うようなもので、路上テストもあったが、もし認知テストがあったら嫌だなと構えていたら、それはなくて、今度3年後には認知テストがあるそうである。高齢者講習と言われると自分も少し年をとったなと、気持ちちは20歳だが、結構緊張感があった。先ほどはたちの成人式の話もあったが、自分が残念だったなと思ったのは、女性の方は司会もやったし、市長から記念品を受け取ることもあったし、またお礼の言葉を言うところもあったのだが、男性はいなかった。少し歯がゆいなと思った。男性の中にももう少し世の中に胸を張って出てくるような青年

がいと頼もしいかなと思う。

高森教育長) 宮田委員のメッセージの件で思い出したのが、北川小が運動会前と年賀状を、必ず子どもが手書きでハガキに書いて私のところに届く。それには必ず返事をする。来賓の方とか地域の方とかにも子どもたちが書いて出しているのではないかなと思う。広げていくといいなと思った。成人式については、格好に反して、前の人が礼をすれば礼をしたり、「はい」とか返事をしたり、そのような青年もいたなと思ったところである。追跡調査の話は、多様化学校を昨年度末に卒業した子どもたちが高1になって、今年度どうなっているのだろうかとか気になっていることもあり、そのようなことから日曜参観の時に卒業生の声を聞く会のようなものを多様化学校で実施した。皆頑張っているということであった。そのようなものも続けていきたいと思っているところである。企業継承の話も出たが、先日新聞に高橋前委員が継承の話で載っていた。教員の子どもも教員になってくれるとありがたいなとも思った。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、1月24日の新しい学びプロジェクト第2回連絡協議会や12月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◎) 公園のトイレを壊した話で、弁償はないとあったが、そのようなものなのか。

⇒) 今回の件については、弁償はないと報告を受けている。今回の件は、一つの学校の5名が関わっており、個室のトイレの扉を閉めて、グラグラと扉をゆすったり蹴ったりしていたら曲がったのだと思う。それによって開閉が難しくなったという行為であった。管理している都市計画課からは弁償はしなくてよいと聞いている。今回は修理も軽くて済んだのではないかなと思う。扉を入れ替えるとか、そのようなことにまではなっていないと聞いているため、そのような措置になったのだと思う。

◎) 状況によっては弁償しなければならないこともあるのか。

⇒) それはあり得る。

◎) 学校でもガラスを割ったとか、その割り方とか、パソコンでも、明らかに落としたのか、投げたのかとか、先ほどのドアのように古かったとか、いろいろ状況を判断し、保護者にお願いすることも、また今回のようなこともあるようである。

◎ 議 事

◆議案第 31 号 延岡市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定
(学校教育課)

- 学校教育課長より、熊野江小学校廃止による通学区域の変更のための規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 32 号 延岡市文化財保護審議会委員の委嘱 (文化財・市史編さん課)

- 文化財・市史編さん課長より、延岡市文化財保護審議会委員の委嘱について説明が行われ、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆学びの多様化学校分教室の本校化について (学校教育課)

- 学校教育課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○すでに 12 月議会を経て報道でもあった通り、本年度末で熊野江小学校は閉校し、令和 8 年度末で南浦中学校は閉校することとしている。これに伴い現在南浦中学校の分教室として設置している学びの多様化学校熊野江教室を令和 9 年度から熊野江地区に、新たな学校として設置する計画であるため、本日はその計画について委員の皆様から意見をいただきたい。

○現在の学びの多様化学校分教室熊野江教室の状況については、令和 6 年 4 月 1 日に熊野江小学校の校舎の 3 階を使用して、南浦中学校の分教室として開設した。分教室は、本校から離れた場所に設置して運営される教室のことで、特別支援学校や学びの多様化学校の設置形態の一つとして、県内や他県においても多く見られている。教職員の配置や学校の運営は南浦中と一体となるが、一部を異なる場所で運営しているという位置付けであるにとらえていただきたい。

○熊野江教室の特色として、まず大切にしている考え方がある。特に一つ目の「学校が子どもたち一人一人に合わせる」、二つ目の「他者と比べることなく、自分自身を大切にする」ということを大切にしている。教育課程の編成にあたっては、文部科学省から特例を認められており、中学校の年間標準授業時数 1015 時間を 770 時間に削減して運営している。週当たりで言えば、標準が 1 週間当たり 29 時間行うところを、分教室では 22 時間で授業をしているということになる。教育課程編成表を資料に掲載しているが、例えば 1 年生の国語は 70 (140) と書いてある。これは、国の標準時数年間 140 のところを熊野江分教室では半分の 70 時間にしているということで、括弧内の数字が、国が定める標準時数を示している。熊野江教室には 4 つの新設教科があり、かつ、その 4

教科は「プロジェクト学習」「セルフマネジメント」「芸術」「個別学習」の4つである。記載されているような内容のものを教科として時間割に位置付けている。

○職員数については、資料に掲載されているような人数となっているが、県からの加配教員を3人分つけてもらっているのだが、非常勤講師である会計年度任用職員の力を借りて教科担をそろえている状況である。生徒数は現在13名である。来年度も13名の予定であるが、来年度の3年生が9名と多くなる状況である。学校生活の様子について、生徒は宮崎交通の路線バスを使って通学している。校舎の目の前にバス停留所があるため、先生たちは校舎の中からも到着したことを確認できる環境となっている。また、熊野江教室では地域と連携した活動を大切にしている。昨年度は地域の方々や建築士会の方々と一緒にこのバス停のリノベーション活動に取り組んだ。今年度は野菜づくり等の栽培活動等にも取り組んでいる。遠足などの校外学習は、生徒が自分たちで計画し、校内の生活を送る上での決まりも自分たちで決めるということにしている。毎日の授業で先生や友人と一緒に学んだり、一人で学んだり、また外部の方やカウンセラーによる授業を行ったり、多様な方法で学べるように工夫しているところである。生徒自身による選択と自己決定を大切にしながら、生徒の成長を促しているところである。

○令和8年度の熊野江教室の運営について、これまで熊野江教室は熊野江小学校の3階を使用して学習を展開してきた。熊野江小学校は本年度末で閉校することから、熊野江小学校の1階2階も熊野江教室が使用することにする。オンライン学習支援室が現在3階にあるのだが、3階の2つの教室を使用し、それ以外はすべて熊野江教室で使えるようにするため、来月から準備を進める考えである。

○令和9年度の学びの多様化学校の設置・運営について、令和8年度末で南浦中が閉校することに伴い、令和9年度から学びの多様化学校を資料掲載のとおり設置する。まず、学びの多様化学校を「分教室型」から「本校型」の設置とし、南浦中学校が閉校するため、学びの多様化学校を独立した一つの学校として新たに設置するということである。校舎も引き続き熊野江小学校を使用する。熊野江小、南浦中のどちらの校舎も使用可能な状態ではあるが、設置当初から熊野江小学校の校舎を使用しており、すでに生徒にとって馴染みがあること、令和8年度は熊野江小学校の校舎をすべて使用することから、令和9年度開校に向けた準備が容易であること、熊野江小学校には校舎屋上への非常階段が整備されていることなどから、引き続き熊野江小学校を使用することとしている。

○南浦中学校の閉校と学びの多様化学校の開校準備について、まず準備委員会の設置が必要であると考えているが、別組織として立ち上げるのか、一つの組

織として立ち上げて部会を作る形にするのかなどについては、校長先生の意向も大切にしながら考えたいと思う。閉校準備については南浦中学校の本校勤務の先生方や生徒を中心に準備していくことになるだろうと思う。なお来年度の南浦中学校の生徒数は3年生が2名のみとなる。開校準備については、熊野江教室に勤務する先生方を中心に検討することになるだろうと思う。特に開校に向けた準備については、学校の名称、校歌、校章、校訓などをはじめ、多くのことを検討する必要があるが、その検討にあたっては、在籍生徒や保護者、地域の方々、さらに外部人材を入れ、より広い視点で協議ができるのではないかと考えている。

○来年度のスケジュールについて、現時点で想定しているおおよその計画であることをご了承いただきたい。学校設置条例の改正が必要となるため、学校の名称は早めに決定しておく必要がある。様々な検討が必要であることを考えると、12月議会での議案の提出、2月に市長定例記者会見等で公表するスケジュールになるのではないかと考えている。そのゴールを見たときに、4月からどのようなことに取り組む必要があるかということをもとめている。

○最後に、開校に向けて準備する必要があることを挙げている。多くの検討事項があると思うが、この他にも多くのことがあると想定される。学校と教育委員会が密に連携しながら計画的に準備を進めていきたいと思っている。南浦中学校の閉校、学びの多様化学校の開校に関することについてまた意見をもらえればありがたい。

◎) 南浦中学校がなくなるからという前提に立っての説明だったと思うが、この分教室から新たな学校ということになると、やはりそれなりの良さというか、さらにこういった面で充実していくことができるという部分も強調していく必要があるだろうと思う。当然職員の体制等については充実したものになっていくとは思いますが、現在進められている分教室から、今度新たな学校ということになったときに、その他の面で何かこういった面で子どもたちにとって充実した教育ができるようになるという部分がいくつかあると思うが、どんなことが挙げられるのか伺いたい。

⇒) 熊野江地区に学校を残すということで、学校の魅力ということになると思うが、まずは自分たちで学校を作っていくということ。まず学校名から、また、どのようなことを大事にしようかということを生徒とともに、職員、地域の人も交えて、校訓だったりルールだったり、そういうふうに自分たちの手で学校というものを運営していく唯一の学校であると思っている。生徒とか学校職員だけではなく、生徒とともに学校を作り上げていくという、ここが最大の魅力

ではないかと思う。また、現在も子どもたちの発想を生かして、それぞれの特色ある学習活動をしてもらっているが、ここの部分についてはさらに強化していく必要があると思っている。もっと熊野江地区の良さを最大限に生かした体験活動なり、学校の行事だったり、そのようなまだ開発できるところはたくさんあるため、そのような分野で熊野江教室の魅力を増やしていく必要があると思っているところである。確かに地理的にまちなかから遠いというようなデメリットも感じる方も当然いる。その部分について、現在通学支援については研究しているところで、どのような形で、いつからそのような支援ができるかとか、また考えていきたい。

- ◎) 今の件で補足すると、例えば教科指導のことだけを考えると、例えば東海中なりに空きスペース、空き教室があり、しかも出入口が分けられて、会わないようにできると、東海中にはすべての教科担がいるため、そのようなメリットはあるのだが、なかなか今のように入口を分けたりとか、逆に東海中在籍の生徒が多様化学校に行きたいというときに多様化学校が東海中にあるとなると、やはり行き辛いというところもあるだろうし、まちなかに学校外の施設を作ったり借りたりして行うという方法も検討したが、まちなかで元の学校の生徒に会ってしまうとか、さっき言った交通費のデメリットはあるが、1回リセットできるとか、あと地域の方々と連携して自分たちでとかいう流れがあるので、両方検討したが、今のところに残して本校化して動かしていくほうがふさわしいだろうと、今のところ、事務局で協議して進めているところである。
- ◎) 今言われたことはまさにそうであるが、熊野江の土地柄というのがすごく素晴らしい自然豊かなところで、立地的にはすごく良いところだなと感じているのだが、やはり通学手段。私が相談を受けた子どもの中で、実際見学には行って、通常まちなかの学校には通えないが、熊野江の中学校だと言えそうだという女子生徒であったのだが、ただやはり通学手段。ひとり親世帯であった。延岡市の共働き率というのはもう90%を超えていると思うが、やはりそれぞれの世帯を考えた時に、1点目はバスの費用。子どもであるため半額だとは思いますが、これが毎日となるとどういう金額になるかというところ。また、もし、朝の授業開始の時間に遅れた場合の後、送っていくすがどうあるかという、これはもう家庭の問題かとは思いますが、何かしら支援策があるのか。その次のバスの便までのところ。ただ、多様化学校の子どもたちであるため、何かしら見える化してあげないと、見通しが立たないと、やはり少し気持ちが萎える子どもも多

くなる。そのようなバスの費用の問題というところがあるので、結局私が相談を受けた女子生徒は、一般の方々も乗るバスというところで、どれくらいの人数が乗るんだろうかと、「ほとんど乗らないんだよ。ほぼ多分通学生徒が乗るぐらいの人数だよ。」と私からは話したが、何かしら見えない不安がある。「一般の方々も乗るんでしょう。」というところで、実際通学を見送った子どももいた。また費用の問題だったり、第2、第3の時刻をどう保障するかというところも何かあればというふうに思った。

⇒) まず、バス代については、定期券半年分で約7万3千円なので、通年で考えると14、15万の費用が必要になると宮交に確認している。3ヶ月分であっても7万円で、半年分とそれほど変わりはない。バスについては8時24分に元給食センター跡地のバス停に到着することとなっている。今は南延岡駅前から乗車する子、延岡駅前から乗車する子、川島町から乗車する子という3パターンがあると思う。帰りは2時15分のバスで、生徒は皆帰るのだが、バスの時刻を優先した学校の時間の割り振り、校時、そのような流れとなっている。そのため、通常の教科の授業が4時間授業である。あとはセルフマネジメントとか帰りの会をして帰るというように、バスの時刻を優先した形になっている。ただ、第1便で到着すればよいが、乗り遅れた場合、次の便はあるのだが、遅れた手前、学校に来ることができなかったという場合もあると聞いている。そのため、遅れてでもいいんだよというふうに、心情的に働きかけるしかないかなと思うが、まずは家から出ることですまず大成功というふうに承認していく必要があるだろうと思っている。遅れた場合はやはり家庭の、若しくはその子どもの心情、考えによるものが大きいかなと思っているところである。今バス代のことを言ったが、今後この多様化学校だけではなく、不登校支援というくくりで通学支援ができないだろうかと考えているところである。例えば、出席扱いをすると延岡市に認められたフリースクールへ通っている子だったり、教育支援センター、アウトリーチオアシス教室など、そちらにバスで通っている子どももいる。南中の男子生徒など、朝から通っている子どももいる。まずそのような交通機関を利用して登校している子どもたちがどれだけいて、どれぐらいの出席率でとか、他県ではどんなふうに支援しているのかとかいうのを今、研究しているところであり、まだ課としての考えは決まっていない状況である。

◎) 遠距離通学の支援、距離が4キロ以上で本来校に通う支援を学校支援課がやっているが、そのようなこととの整合性だとか、どうい

う視点でどういう支援をしていこうかというところを教育政策課、学校教育課、学校支援課で課を越えて協議を進め、情報を集めたり、こうなったらこちらが不公平であるとか、小規模特認校はどうなるのかなど、いろいろなところを今整理しているところである。

- ◎) 甲斐委員) 現実的に考えて、南浦中学校は市内から約 20 キロある。往復すると 40 キロ。通学する場合、例えば保護者が送るかバスを使うかという話。多くは市中心部の学校であるのだろうと思うが、その子たちが南浦まで頑張っていこうかという、そもそも学校に行きたくない人がそこまで行けるかというのは、自分はいつも疑問に思う。例えば、延岡市内の中に自転車でも、または保護者が送り迎えできる簡単なところに学校を別に設けるということもできないのかなと思った。極端な話ではあるが、青朋高校という夜間と通信制のある高校があるが、ここは昼間どんなことをしているのだろうかと思う。教室が余っているところ、そういうところに、県とタイアップしてこのような多様化学校を作るとか、そんな発案はないのだろうかと思った。行政はいろいろと県とか市とか隔たり、壁があり、この壁を乗り越えていくことというのはなかなか、管轄外というのはこのような感じで、遠慮がちである。そんな提案をして、「こうしようよ」というようなことはできないのかなと思った。そうすれば、不登校の子たちも何らかの形で学校に行こうかななどと考えるかもしれない。そんな提案というか、自分なりの考えがある。今、南浦中学校の多様化学校に通うというのは、私としては、現実的にはない。

- ◎) ご意見ということで承りたい。また今後、自治体を越えた取組みというところも模索していく必要があるかなと思う。ちなみに都城市がこの 4 月に開校するところは、南九州大学のキャンパス内に設置される。宮崎市が現在設置しているのは夜間中学校で、その夜間中学校は宮崎市教育情報研修センターにある。宮崎小学校がすぐ横にあるが、学校ではない中に設置しており、多様な設置の仕方もあるため、検討していきたいし、先ほど出た教育支援センター、昔の適応指導教室も、今、サテライトも含めていくつかある。また、一ヶ岡地域では、福祉と一緒に地域の中に建物を作ろうとしているが、その中にも子どもが学べる施設を作ろうとしている。家から出られる子、出られない子、学校的なところに行ける、学校的なところには行けないが、こういうアウトリーチオアシス教室のようなところには行けるとか、多様な選択ができるようにしていきたいと思う。

- ◎) 私にも同じ立地の話があるのだが、今はバスが出ているが、それが、今後ずっと続いていくのだろうかというのが一つ。10年後20年後、もしそれが厳しくなってきたら、どうしても学校が市内に移らなきゃいけないという可能性も出てくると思う。その時に移すほうが逆に大変なのではないかと思う。そうだったらもう早めに、市内でどこかそのような良いところを探し、今のうちから市内でやっておいた方が将来を考えた時に、どちらにしても多分市内に必要ななってくると思う。
- ◎) そのあたりも見越してまた研究していきたいと思う。宮交には先日私も行って色々確認をして、急にやめるとか絶対にやめてくださいねとか、ちゃんと相談してほしいと話をしている。今のところ路線はなくさないという約束はしてもらっているところである。もしそうなってきたら、通学バスのような、北方・北浦・北川のようなバスの運用を始めるとかも選択肢の一つである。中心部の不登校が多いのだが、やはり3北にもいるため、逆もけっこう通学に手間がかかるので、本当はいろんなところに多様化学校があったり、今、校内支援センターというものを2校に作っているが、それがすべての学校にあるというのが一番理想なのだろうとは思いますが、予算も絡むため、まず、子どもたちにとっての最適解をできるだけ工夫しながら、研究しながら見ていきたい。事務局で頑張りたいと思う。
- ⇒) 確かにまちなかにということも考えた。ただ、知っておいていただきたいのが、今度4月から、A中から来る子どもについて、バス停はどこにするか、すごく悩んだ。というのは、A中学校の生徒と会ってしまうからである。では、町の中心街になったらどうなるであろうか。もっと多くの子どもが自分の出身中の子と会ってしまうという可能性がもっと広がるという危険性もある。それによって、行きたいが行けないという気持ちが強くなるとか、そのため、熊野江は確かに遠くて不便を感じる、お金もかかるというのは十分承知の上であるが、遠くに行くことで少し人の目を離れ、静かな場所で、ガヤガヤしていない、自分たちで育めるというところは、当課としては大事にしているということもある。
- ◎) 予算もたくさんあって利用希望がもっと増えてくれば、そういうところもあるだろう。まちなかでもいいっていう。宮崎市あたりは、勇志国際とか、いろんなところが増えてきているため、そのような選択肢がたくさんできていくのがいいのかなど。一番は近くの学校が楽しくてたまらないという子どもが全員になるのが一番であるため、そのようなことも総合的に絡めながら考えていきたい。

◎ その他

◆令和7年度アウトリーチ懇談会の協議結果報告（学校教育課）

- 学校教育課長より、令和7年度のアウトリーチ懇談会における協議結果について報告があった。

◎) これは子どもたちに視点を持って受けた指標であるが、一方で、東京学芸大学と連携しながら、先生たちの教育ウェルビーイングの指標も作る研究を始めている。そのようなものをうまく連携させながら、多様化学校の先生たちのマインドセット、心遣い、心持ちを他の通常の学校にも広げていきたい。先ほど多様化学校で大事にしていることというところがあったが、それが延岡中であったり、延岡小であっても当てはまるところが多々あるため、そうすると魅力ある学校が広がっていくというところがあるので、そういった指標づくりも今着手を始めているところである。

◎) これを拝見し、子どもを中心にした指標なんだなというのは承知したが、例えば不登校の子どもの場合、家庭との一体化というところが大事かなと思っており、子どもと親をセットで考えてもらうところも必要なのだろうなと感じている。兄弟2人とも不登校の保護者と面談した時に、保護者へ何か希望はあるかと尋ねた時に、できたら中学校区で当事者同士の話、懇談できる場がほしいという母親がいた。おそらく例えば、不登校の急性期にある母親たちは、今何をどうすればよいか分からないというような状況で、おそらくこのような懇談会があったとしても出られないとは思いますが、ある程度、少し長期化したとか、行けたり行けなかったりなんだというような、どうすればよいのだろうかというような家庭の母親などは、やはり共有する場がほしいのではないかとすごく思っている。そのような意見をもらっているので、何かしら保護者向けに、保護者にもちゃんと伝えるというような部分があったが、そこも少し子どもとその親をセットにした何かあるといいなと感じた。

◎) 検討をよろしく願います。要望も、学校教育課にも上がっている。

◆令和8年度の定例教育委員会日程（教育政策課）

- 教育政策課長より、令和8年度の定例教育委員会の日程について説明があった。

◆ 2月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 2月定例教育委員会については、2月10日（火）の13時30分から、議会第2委員会室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（15時00分）